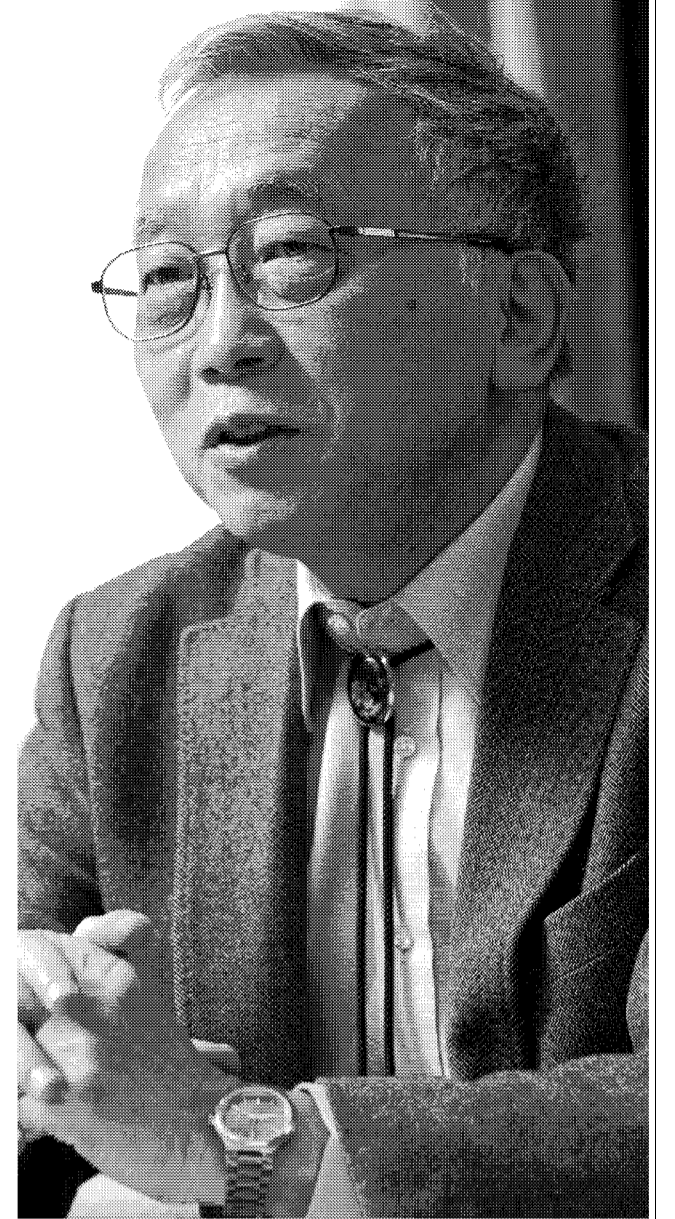


広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 VOL.49



日本福祉大学 学長 二木立さん

愛知県に学舎を構えて今年で60周年を迎える日本福祉大学。「万人の福祉のために、真実と慈愛と献身を」を教育標語に、福祉社会を担う人材の育成に取り組む。今月、学長に就任した二木立さんは大の読書家。「朝7時半に大学に着き、業務が始まる9時まで読書します。家では硬めの本は就寝前に読みます。新聞は毎日6紙、雑誌は月に英語誌約30誌、医療や福祉の専門誌誌を含めて日本語の約150紙誌に目を通します」

思考のプロセスを重視する姿勢に共感

私は医学部出身ですが、40年前の医学部は詰め込み教育がほとんどで、初めの2年は医学系の科目よりも教養科目が中心でした。この時期に様々な本に親しみました。ルソウ、ドストエフスキー、ゲーテ、ヘッセ……。中でも「行動する思想家」として有名な実存主義の哲学者、ジャン・ポール・サルトルに心酔して全集を読みふけり、「方法の問題」に証明的批判的序説にある「理解する」

学生は分野にとらわれず乱読を 対立意見も読んで自説を深めよ

とまでは変わることであり、自己の彼方へ行くことであるという言葉は、今日まで座右の銘の一つとなっています。学生運動に没頭したときには、マルクス、エンゲルス、レーニンの著作なども読みました。また、当時から本には書き込みを励行していました。あとで読むと、琴線に触れた言葉や疑問を持ったことなどが二日でわかります。重要と思う本については読書ノートをつけ、その習慣は50年近く続いたと聞いています。

厚生労働白書は 社会保障の教科書

若い人はかりでなく、多くの人に社会保障の基礎知識を身につけるために読んでほしいのが、「平成24年版厚生労働白書 社会保障」です。平成24年版厚生労働白書 社会保障

「ぶくし」の総合大学を目指す

日本福祉大学の大学案内やウェブサイトで「ぶくし」という表記が各所に見られる。これについて二木立さんは語る。「漢字の「福」は生活保護や障害者支援といった狭義の福祉。つまり「特定の人のためのもの」というイメージがあります。それと対照的に「ぶくし」は「人間らしく幸せに生きるためのあらゆる活動を包摂する言葉」として、平仮名を用いています。ビジネス、経済、教育、医療など、様々な領域において活躍できる人材の育成を目標としています」



1947年生まれ。72年東京医科歯科大学医学部卒。75年公益法人財団・代々木病院理学療法科開設に参加。同科科長・同院病棟医療部長・同財団理事などを歴任。85年日本福祉大学社会福祉学部教授。92年米国UCLA公衆衛生学大学院客員研究員。99年日本福祉大学大学院社会福祉学専攻科長。2003年社会福祉学部長。文部科学省21世紀COEプログラム・日本福祉大学拠点リーダー。09年副学長。常任理事。13年4月から現職。

二木立さんがすすめる5冊

「これからの「正義」の話をしよう」(早川書房) マイクル・サンデル 著 鬼澤忍 訳 ハーバード大学史上空前の履修者数を記録し続ける人気講義をもとにした全米ベストセラー。アリストテレス、カント、ベンサム、ロールズなど古今の哲学者の思想を吟味しながら、現代社会の奥に潜む哲学・倫理の問題と向き合う一冊。

「平成24年版 厚生労働白書 社会保障を考える」(日経出版) 厚生労働省 編 第1部「社会保障を考える」では、社会保障の目的や機能、日本の社会と社会保障の現状、これからの課題などについて、第2部「現下の政策課題への対応」では、東日本大震災からの復興に関する厚生労働省の取り組みなどについて記載。

「リーダー論を 大学運営に重ねる」(日経出版) リーダーの大事なる資質は、歴史と失敗に学ぶことだと思えます。この点で参考になったのは、「ワイロと日本共和国ヒトラー」が出現させたもの(「日本近代史」)です。後者は、太平洋戦争に至る「崩壊」の過程の精緻な分析と、3・11以降の日本との対比が印象的でした。東北地方の復興、復興は日本国民の一致した願いである。しかし、それを導くべき政治指導者たちは、ちよと昭和10年代初頭のように、四分五裂して小物化している。「困難」に直面すれば必ず「明治維新」が起り、「戦後改革」が起るといふのは、具体的な歴史分析を怠った、単なる楽観にすぎない」との筆者の鋭い指摘にうなりました。

「結果を出すリーダーはみな非情である」(ダイヤモンド) 富山和彦 著 明治維新も第2次大戦後の復興も、革命の担い手は、企業でいえば課長クラス、ミドルリーダーだ。今の混迷期を脱するには、ミドルリーダーの踏ん張りが必要だ。自分がトップのつもりで考え行動するリーダーシップの鍛え方を示す。

「ヒーローを待っても世界は変わらない」(朝日新聞出版) 湯浅誠 著 昨年3月までの約2年間、内閣府参事として政権に入った著者が、「橋下現象」や「決められない政治」「強いリーダーシップ待望論」について検証。議会政治と政党政治をあえて擁護する立場から、格差や貧困、真の民主主義のあり方を探る。

「日本近代史」(筑摩書房) 坂野潤治 著 1857年から1937年までの80年間の日本を「改革」「革命」「建設」「運用」「再編」「危機」という6つの時代に区分し、通観、めざましい近代化を実現しながら、崩壊へと突き進まざるをえなかったのはなぜか。史料を精緻に読み解き提言する。

心屋仁之助の「悩み」を今ある「悩み」をズバリ解決します！ 17万部突破!! 不安・イライラがなくなる本

眠れないほど面白い『古事記』 20万部突破!! 愛と野望、エロスが渦巻く壮大な物語 由良弥生

本は10冊同時に読め! 成毛眞 本は最高の自己投資。速く、深く、多く読める。一石三鳥の読書術!

「美しく生きる人」 一日24時間の「時間割」 浅野裕子

三笠書房 BOOK STORE www.mikasabooks.jp